

課題一覧		
2023-A-01 足達 俊吾	高感度・網羅的プロテオミクス基盤プラットフォーム構築	
2023-A-02 葛西 秀俊	ゲノム編集による網羅的遺伝子改変動物の作製プラットフォームの構築	
2023-A-03 鈴木 健一	一分子レベルでの細胞内同定可視化基盤技術開発	
2023-A-04 鈴木 健一	統合データベースを活用したAI解析基盤の構築	
2023-A-05 柴田 龍弘	オミックス情報を活用した新たながん予防開発研究基盤の構築	
2023-A-06 斎藤 豊	多施設共同による便ならびに全消化管内視鏡下生検バンキングの基盤構築に関する研究	
2023-A-26 河野 隆志	本邦がんゲノム医療における全ゲノムシークエンス体制の構築に関する研究	
2024-A-01 小嶋 泰弘	深層学習と数理モデルの融合による一細胞と微小環境の統合的情報解析基盤の創出	
2024-A-02 谷田部 恭	希少がんのコンパニオン診断等の検査における分析性能評価基盤の確立	
2024-A-03 西川 博嘉	先進的免疫ゲノム解析確立に向けた検体バンキングと網羅解析基盤の樹立	
2024-A-21 都賀 稚香	NCC研究開発の国際競争力強化のための施策研究	
2025-A-01 加藤 護	量子コンピューティングの医学研究応用	
2025-A-02 鵜飼 知嵩	がん精密医療に向けた統合アプローチによるがんスペクトラムの解明	
2025-A-03 白石 友一	日本人完全版ゲノムリファレンス配列の構築とがんゲノム解析への応用	
2025-A-04 高阪 真路	先端技術を用いたクリニカルシークエンスの開発と稼動性・臨床的有用性の検証研究	
2025-A-05 濱田 哲暢	ヒト化免疫不全マウスを用いたPDXの生物学的特性と薬物治療反応に関する検討	
2023-J-01 谷田部 恭	（重点課題）ナショナルセンターバイオバンクネットワークプロジェクト等連携に参画する国立がん研究センター等バイオバンクの整備と運用	

頂いたご意見
○ 実施された課題は、NCCJ研究所の研究基盤整備、国内外の研究ネットワーク構築、新規研究テーマのフィージビリティ検討など多岐にわたるが、いずれも研究所の研究活動に利するものと考えられる。 ○ 3年目最終年度の研究課題はいずれも期待以上の成果が得られている。 特に重点課題で上げられている成果は、NCCJにおけるがん研究の活性化のみならず、日本国民のがん克服を目指した健康と医療の実現のための基盤構築に資する内容であった。 ○ NCC研究開発費の趣旨に沿った研究課題が選定されるとともに、いずれの課題においても着実に成果を積み上げられており、大いに評価したい。

課題一覧	
2023-A-07 久保木 恭利	新規再生医療等製品の効率的な開発に必要な技術基盤の構築に関する研究
2023-A-08 安永 正浩	セラノスティクスモダリティの拡大と新たな非侵襲性バイオプシーの開発 基盤構築に関する研究
2023-A-09 矢野 友規	先端技術を組み入れた内視鏡関連機器をがん診療に導入するための基盤構 築に関する研究
2023-A-10 全田 貞幹	新規支持療法・緩和治療に関する医薬品・医療機器（デジタルセラピュー ティクス等）開発基盤構築に関する研究
2023-A-11 荒川 歩	小児がんに対する医師主導治験基盤構築
2023-A-12 田尻 和子	医薬品による心毒性モニタリング法開発のための基盤構築に関する研究
2024-A-04 吉野 孝之	進行固形がんおよび造血器悪性腫瘍における新しい解析法を含むマルチオ ミックス解析に基づいたがん個別化治療開発基盤の構築および運用に資す る研究
2024-A-05 小林 信	切除可能固形がんにおけるマルチオミックス解析に基づく周術期がん個別 化治療開発基盤の構築および運用に資する研究
2024-A-07 石川 俊平	組織形態病理のデータサイエンス・デジタル数値化基盤技術開発と実用化
2024-A-08 坂東 英明	リアルワールドエビデンス創出のためのデータベース構築とデータサイエ ンス人材育成に関する基盤的研究
2024-A-09 竹下 修由	がん領域におけるデジタルヘルスの社会実装促進基盤構築に関する研究
2024-A-10 葛西 秀俊	実験動物福祉に基づく倫理的な動物実験実施・管理体制の構築とサロゲー トとなる動物代替法の研究
2025-A-06 稲木 杏吏	放射線内用療法開発の基盤整備（TR）
2025-A-07 中條 恵一郎	医工連携による医療機器シーズ創出のための基盤構築
2025-A-08 中面 哲也	in vivo遺伝子治療のTR基盤構築
2025-A-09 佐藤 暁洋	アカデミア発スタートアップ支援のための基盤構築
2025-A-11 佐藤 潤	新規モダリティに対応可能な早期臨床試験の枠組みの検討
2023-J-02（重点課題） 濱田 哲暢	FIOCのコアファシリティ機能の拡充とバイオリソースの管理によるラン スレーショナルリサーチの基盤整備
2023-J-05（重点課題） 土原 一哉	橋渡し研究推進センターの革新的シーズ発掘・育成システムの基盤整備

頂いたご意見

- 個々の研究のレベル、研究開発推進に向けたシステム構築いずれのプロジェクトもNCCJとしての役割を十分果たせている。

○ 全体として橋渡し拠点を意識しているためなのか、異分野融合などシーズに根差した開発研究が多くなっている印象を持った。
吉野先生の課題のうち、ICGC-ARGOすなわち国際連携が、TR・早期開発分野にフィットするのか、オール日本で支えるべき課題ではないのか、その辺に若干の違和感も感じた。

○ NCCJらしい、NCCJにしかできない課題が多かった。
一方で、臨床側に多いによった課題から、非臨床データがまだまだ足りない課題まで、幅が広く、自身の審査基準がぶれているかもしれない、という不安があった。

○ 3年目、2年目の課題はそれぞれに進捗もあり、成果をあげ十分評価できる。
1年目の課題もNCCJが担うべき課題が選ばれているが、1年後の成果をみながら一部見直しをすることも許容して継続するのも良いと思われる。

○ 1年目の課題や動物実験の課題はどれも意欲的で、課題を整理し対策を立てるという点で、評価できる。
データ利用の話も含め、今日的な課題のほとんど初年度1年目の活動および動物実験における課題設定は非常に野心的であり、現状分析と対策構築の的確さは評価できる。
データ利用を含む喫緊の課題の多くは、NCCJ内部に限定されず、関係省庁や外部機関とも密接に関連している。産官学民が一体となって推進していくことの必要性を、改

○ NCCJにしかできない調査や支援基盤構築など、良い課題が増えていると感じた。
また最後の意見交換会でもあったが、TR・早期開発分野と後期開発・標準治療分野のNCC研究開発費のフレキシブルな変更など、研究者にとって使いやすく適切な支援を提供している基盤であると感じた。

課題一覧	
2023-A-13 福田 治彦	共同研究グループ間の情報共有によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究
2023-A-14 柴田 大朗	オミクスデータを伴う臨床研究に対する生物統計学と生物情報学の協同体制の安定的運用と複合領域に係わる解析手法の開発
2023-A-15 阿部 清一郎	次世代の内視鏡診断・治療方法の開発における基盤的研究
2023-A-16 福田 隆浩	移植後長期サバイバーのQOL向上を目指した長期フォロー外来システムの確立についての基盤的研究
2023-A-17 佐藤 哲文	急性期治療を要したがん患者およびがんサバイバーの術後および集中治療後 functional recoveryの実態把握と生活の質を向上させる周術期および集中治療管理に関する研究
2023-A-18 平田 真	がんゲノム医療と遺伝カウンセリングの臨床実装のために必要な技術的・組織的基盤整備と人材育成に関する研究
2023-A-19 渡辺 裕一	画像診断支援AIを持続的に開発・性能評価する基盤環境の構築に関する研究
2023-A-25 小山 隆文	早期開発研究での国際連携推進に資する研究体制の構築に関する研究
2024-A-11 松岡 弘道	患者・市民参画によるがん支持療法とがん緩和治療領域の開発基盤整備
2024-A-12 吉本 世一	がん診療支援、臨床研究および大規模データ収集事業に対応したデータの品質を確保するための診療データ整備手法の開発研究
2024-A-13 里見 絵理子	次世代がん緩和支持療法の開発にむけたデータベース基盤構築及び探索的観察研究
2025-A-10 伊藤 雅昭	医療機器開発における後期臨床評価を実施するためのワンストップ医療機器開発拠点整備
2025-A-12 岡本 裕之	持続可能な次世代がん放射線治療実施体制の構築に向けたAI技術活用と品質管理の適正化
2025-A-13 栗田 大資	後期高齢がん患者における高齢者総合機能評価の確立とその応用に関する研究
2025-A-14 加藤 健	消化管がんにおいて術前/導入治療後の根治治療選択に有用なマーカーを探索する研究
2025-A-15 後藤 悌	がん医療の汎用性の高い包括的な構造化データの作成
2025-A-16 今岡 大	放射線内用療法の開発基盤整備（臨床）
2025-A-17 栗原 美穂	がん領域に特化した高難度医療技術を実施可能なナースプラクティショナー（NP）の基盤整備
2025-A-18 後藤 功一	新規マルチ診断薬の申請に活用することを目指した、LC-SCRUMの臨床ゲノムデータベースの最適化とその検証を目的とした臨床性能試験
2025-E-01 山本 昇	遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養（NCCH1901）
2023-J-03（重点課題） 金光 幸秀	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究

頂いたご意見

- 達成度を適切に評価するためには、事前に計画した本研究期間または当該年度内に行うべきことと、実際はどこまで進んだのかをセットでご発表いただくと良い。プレゼン資料に関しても、テンプレート化されると評価が行いやすい。AMEDにおけるマイルストーン資料のようなものはだろうか。基盤となるような研究が望ましいようであるが、個別の研究も混在している。

○ 多くの研究課題において、新たな標準療法の創出や従来の治療体系の改善につながる知見が得られており、研究継続によりさらなる発展が期待できると感じた。

○ 今回の評価会では我々評価者に比して両病院長のコメントの比率が多く、特に東病院側が研究代表者となる課題が新設されたこともあって、内容を把握されている土井院長からの研究者への指導が多かった。腫瘍学全般について造詣の深い同院長が存在感を発揮され、外科領域においては瀬戸院長が精通しておられる状況が、従来の評価会とはずいぶん異なる雰囲気醸し出しており、自分自身としては委員としての知識と力量の不足を自覚せざるを得ない側面があった。これがよくないということではなく、大変勉強にもなったし、また意見を言いにくい専門外の分野でも円滑に議論が流れていく点はメリットと感じていた。必要があれば十分に意見を言える場もあり、トータルとしては予定よりやや早めに終了していることから、今回の評価会の形は非常に良かったし、委員も様々な研究の背景や内部事情を知ること出来たのではないかと考える。患者・遺族のアンケート調査の結果としてのアンメットニーズを意欲的にがん診療に反映させようとしているがん診療拠点病院の要件を考えると、本研究費における研究内容にはそうした内容を追求することを趣旨としており、必ずしも学術的な研究成果に繋がりはやくはない内容も含まれている。また、こうした内容のものほど本研究費にふさわしいという側面もある。蛇足ながら、がん診療拠点の要件には人手と手間がかかるわりに診療報酬に反映されない内容が含まれがちである点についても検証していただき、そうした内容が将来的に病院収益にもつながるようになればありがたい。後期開発・標準治療開発分野ではもちろん最先端の尖った研究も進められており、特に医療DXやAIに関わる研究には普遍性がある。こうした研究の成果はぜひ水平展開していただけることを希望している。一方、後期開発・標準治療開発分野としてエビデンス創設のために研究費、規模、参加施設数のいずれにおいても段違いに規模が大きなとりくみがJCOGの研究であるが、歴史上多くのレジェンド級の医師たちが業績を残してきた。しかし、代が変わってもしっかりと研究が継続され、その成果が世界的な雑誌に報告され続けているのは素晴らしい。

○ 後期開発・標準治療開発分野に関する令和7年度中間・事後評価において、3年目終了のテーマについては、大きな成果が得られた研究が多く、NCCJに相応しい水準の研究であったと評価できる。2年目のテーマについても順調な進捗が認められ、3年終了時には期待できる成果が挙げられるものと考えられる。1年目のテーマについては、なお構想段階にある研究も見受けられるが、次年度に向けた継続に問題を感じるものはなく、概ね妥当な研究計画と判断される。総じて本分野は高いレベルの研究成果を示しており、今後もNCCJとして日本の臨床研究を牽引する役割を果たされることを期待する。

課題一覧		
2023-A-20 中林 愛恵	施設におけるがん登録の収集支援と活用発展に関する研究	
2023-A-22 八巻 知香子	がん情報提供のためのチャットボット（自動応答）システムの構築と生成型AIの活用可能性の検討	
2023-A-24 和田 佐保	都道府県における診療の質向上のための拠点病院間ネットワーク構築に関する研究	
2023-A-27 坪井 正博	がん情報サービスを用いたユーザビリティ、知識や行動意図の向上を確かめる実証研究	
2024-A-14 和田 恵子	科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究	
2024-A-15 小川 朝生	がんサバイバーシップガイドラインの提言と普及・利活用に関する研究	
2024-A-16 小林 望	既に実用化されている診断法や新たに開発された早期発見手法の検診への導入を目指した評価とその情報発信に関する研究	
2024-A-17 島津 太一	がんの予防における実装科学研究の基盤構築	
2024-A-18 片野田 耕太	がんの統計情報の整備と活用に関する研究	
2024-A-20 大熊 裕介	がん医療の標準化および提供体制の検討に資する情報基盤の構築・活用に関する研究	
2024-A-22 松田 智大	社会医学分野と臨床・基礎研究分野との融合を目指した国際共同研究	
2025-A-19 堀 芽久美	個人情報保護に配慮したデータシェアの手法と国際共同データベース作成に関する研究	
2025-A-20 石木 寛人	経済毒性ががん患者・家族のDisease trajectoryとQOLに与える影響の探索	
2025-A-21 江崎 稔	がん診療の費用対効果、医療経済評価を含む多様な価値評価の構築をする研究	
2025-A-22 藤森 麻衣子	患者・市民参画による優先課題を踏まえたがんサバイバーシップの開発研究基盤整備	
2025-A-23 岩崎 基	ゲノム情報の疫学研究への応用を目指した連携研究基盤の構築と運用	
2025-A-24 藤澤 大介	医師・医療資源の偏在対策に資するがん医療のあり方に関する研究	
2023-J-04（重点課題） 澤田 典絵	多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究	

頂いたご意見	
○ 一部の研究を後期開発・標準治療開発分野に移転（他の研究と統合）するなど、新たな視点で研究全体の枠組みを見直そうとしている点を評価する。 コホート研究の継続は重要である。しかし、現在のNEXTコホートの問題点を評価し、都市部住民、沖縄県住民（本土部とは遺伝的背景、生活習慣、自然環境が異なると思われる）を加える可能性に関しても検討すべきである。（多大な努力を必要とする割に、十分な成果が得られないと判断すれば、コホート研究以外のアプローチを考えざるをえないであろうが）都市部でコホート研究を行うとすれば、中小企業労働者を基盤とし、退職後も追跡するという方法も検討すべきである。試験的な試みとして、大田区で実施される検診に関する活動とリンクしてコホートメンバーのリクルートを行うことも考えらえる。 がん遺伝子パネルの検査率を上げるための努力をさらにステップアップする必要がある。現在のコホート（新たなコホート研究を行う場合、それを含む）でも、参加者、協力病院でも検査率を上げるための努力を行うべきである。 一部の発表でスライドの文字が小さく、読み取れないことがあった。タブレットで拡大しても読めなかったので、改善していただきたい。	
○ 多くの研究課題において、既存エビデンスの整理、ガイドライン整備、データ基盤の活用、現場との連携が着実に進められており、我が国のがん対策を支える公共性の高い研究として一定の成果が認められる。 ○ ナショナルセンターとして行うべき事業が、研究として上から研究者にアサインされる状況では、全体を見通す立場をチームを組むなどして補強する必要があるのではないか。事業的な側面が強いものであっても、2023-A-27坪井班のような研究的な取り組みや発信は、重要と考える。 また、成果の周知や実装に向けた広報などは、研究者、研究班というより、NCCJ全体で取り組めるような体制を整備していただきたい。	
○ 全体としては、設定された目標に向けて十分に進捗しているものと思われる。NCCJの組織も変わりつつあると認識しているので、医療機関や自治体への成果還元、マスメディア・ソーシャルメディアへの情報発信の促進を期待している。例えば、（一般）メディア向けに複数の取り組みの成果を報告する企画などだろうか。	
○ 内容説明の質があがり評価がしやすくなった。また、期待成果として「社会医学」分野らしく、論文作成にとどまらない展開を頭においている研究者の先生が増えていることも素晴らしいと思う。今後、がん対策研究所として研究成果をどう使っていくのかの大まかな、かつ具体的な方針を決めておく研究計画を立てる時点でも、成果を活用してく場面でも有用だと思う。ただでさえAI時代の情報発信は環境変化が速く、激しいので、そこにキャッチアップすることががん対策研究所の一つの課題であると思う。	
○ 社会医学分野における各研究課題は、がん医療の質向上、患者・市民参画、医療経済評価、国際連携、データ基盤整備、医療提供体制の格差是正など、現行のがん対策および政策的要請と強く整合する重要なテーマを幅広く網羅している点は高く評価できる。一方で、分野全体を俯瞰すると、研究タイトルや理念として掲げられている大きな概念（多様な価値評価の構築、偏在対策、サバイバーシップ、国際共同研究の融合等）に対して、研究内容が必ずしも十分に対応し切れていない課題が散見される。	
○ 各研究の大きな目的（社会に与えるインパクト）をまず意識して説明していただけるとより理解が深まる。また、（論文化は重要な指標の一つではあるが）どう社会に活かすかを考えて研究を進めていただきたい。	
○ 各研究の大きな目的（社会に与えるインパクト）をまず意識して説明していただけるとより理解が深まる。また、（論文化は重要な指標の一つではあるが）どう社会に活かすかを考えて研究を進めていただきたい。	
○ 新しい研究テーマの提示が多かったが、いくつか非常に大きなテーマ、重要なテーマがあって聞いていて期待が持てた。これらのテーマを扱うとなると、体制や期間のあり方も見直す必要があることと大きなテーマに対してどのように各論に落としていって何から手を付けるかという研究戦略の設定が非常に重要であり、研究初期にやっておくべきことである。研究戦略の検討や設計は、研究者個人でやるには大きいテーマもあると思うのでNCCJまたは少なくともがん対策研究所で時間をかけて検討する必要があるのではないか。	